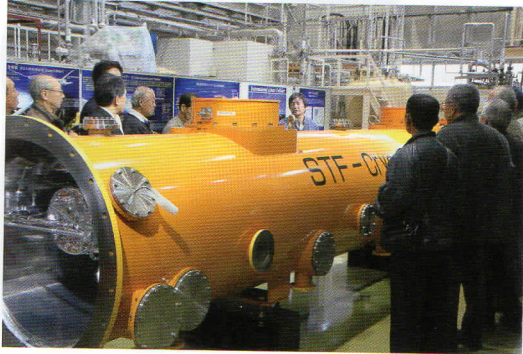


ILCCの まちづくりを考える

大原自治公民館等連合会視察研修

ILCCの加速器建設ルート
の中心（衝突点）となること
が想定されている大東町大原
地区の自治会長で組織する大
原自治公民館等連合会（菅原
五三男会長）と大原公民館
は、ILCC立地評価会議がIL
CCの国内候補地として北上
高地を選定したことを受け、
ILCCを今後の地域づくりに
生かそうと、昨年11月28日か
ら29日にかけて、つくば市の
KEKとつくば市役所を訪れ
視察研修を実施した。

研修には、大原地区の自治
会長ら20名が参加。



KEKで加速器を見学



つくば市役所での研修の様子

初日はKEKを視察。到着
後、施設の概要やKEKで行
われている実験・研究を紹介
するDVDを視聴し、その
後、超伝導リニアック試験施
設とBファクトリー実験施設
を見学。ILCCで使用する測
定機器は、視察したBELLE
E測定器より一回り大きいこ
と、また、ILCCではその測
定器が2台必要なため、衝突
点の地下には大空洞ができる
との説明があった。また、実
験の結果はインターネットを
介して海外からも入手可能で
あるため、実験施設の近くに
いなくても研究は行えるとの
説明があった。参加者からは
「衝突点付近には、どのよう
な施設ができるのか」など自
分たちの地域に重ね合わせ意
欲的に質問を行っていた。

2日目はつくば市役所を訪

れ、「筑波研究学園のまちづ
くりについて」などの説明を
受け、その後、市役所周辺や
工業団地、つくば駅周辺など
を見学した。

市の担当者から「つくば市
は、昭和38年度に研究学園都
市建設が閣議了解され、今年
度で50周年。市内では各種記
念事業が実施されている」、
また、「開発が始まった当初
は、何もないところに道路だ
けが先行して整備された。最
近になり、ようやく街の姿が
できつつある。都市が形成さ
れるには長い年月が必要」と
の説明があり、参加者は、ま
ちづくりに即効薬はなく、息
の長い取り組みが求められる
との認識を新たにされた。

つくば市の現在の課題とし
ては、「近年、市内への定住
者が増加しているものの、つ
くばエクスプレスの開業に伴
い、都心部への所要時間が短
縮され、賃貸住宅に住んでい
た人が都心部から通勤するよ
うになった。このため、市内
の賃貸アパート等の需要が減
少している」こと、「国家公
務員宿舍売却後の跡地利用と
その施設の環境悪化」などが
挙げられた。

参加者からは「開発に着手
する際、地域住民の反対はな



つくば市役所前で参加者の集合写真

かったのか」など、住民と行
政の関係についての質問が多
く発言された。市の担当者の
説明では「開発は国主導で
進められていたが、最近にな
り、ようやく市が携わるよう
になった。市では、当時の詳
しい状況は分からない。しか
し、当時反対した地域は手つ
かずで残っており、逆に地域
からの要望で、最近になり開
発が進んだ地域もある」との
ことであった。

大原地区ではこれまでも自
治会単位でILCC講演会を実
施するなど、積極的にILCC
に関する勉強を行ってきた
が、今回の視察研修はILCC
に伴うまちづくりについて考
えるきっかけとなり、ILCC
に対する理解が一層深まった
研修であった。

地元企業の参画による 「シリコンヒルズ」の実現

S RIP ILCC講演会

一関市及び平泉町の異業種
交流団体・両磐インダストリ
アルプラザ（RIP）と一関
商工会議所が主催するILCC
講演会が、昨年12月2日、市
内萩荘の一関工業高等専門学
校で行われ、東北大学・岩手
大学客員教授で、KEK名誉
教授の吉岡正和氏が「国際リ
ニアコライダー計画と東北の
未来」と題し講演を行った。

会員企業や市民約120
人が聴講。講演で吉岡教授
は、研究機関と連携し新産業
を創出した米国のシリコンバ
レーを例に挙げ、この地域に



講演をする吉岡教授